

多様な研修機関が展開可能

多様な研修機関の実施を期待。主に自職場職員対象とする研修機関の留意点

- ・この研修は、大学・短大、介護福祉士養成施設、介護サービス事業者団体、職能団体である日本介護福祉士会支部、都道府県研修機関、その他研修機関など多様な研修機関が取り組み介護職員のキャリア形成支援の基盤整備に参加することを期待しています。
- ・そのなかで、介護保険施設や事業所を経営する法人等が研修部門を設け、その法人職員を対象に、かつその法人の職員を講師として研修を行う場合は、研修内容の偏りを防ぎ、受講者の視野を広げる観点から、一定の外部講師を確保する(同一施設・事業所の職員による講師が2/3を超えないようにすることを概ねの目安とする)ことが望ましいとしています。

平成19年度の認定・実施状況等(平成20年度は30機関程度の認定を予定しています)

- | | |
|----------|--|
| 【認定状況】 | : 16の研修機関を認定済。そのうち、14の研修機関が開催。 |
| 【共通点】 | : おおむね1日・8時限で1科目を実施し、半年以上の研修期間(月2回程度) |
| 【特色・課題等】 | : 介護福祉士会と介護福祉士養成校、社協との共同実施型の登場
: 受講生を集める際には、組織・ネットワークが欠かせない 等 |

認定機関一覧

平成19年度の認定・実施状況等一覧(申請中含む)

研修機関名団体	領域	開催地	定員(受講者数)	研修開催日
日本介護福祉士会(東京都支部)	全ての領域	東京都	40名(11)	平成19年9月24日～平成20年3月22日
日本介護福祉士会(静岡県支部)	全ての領域	静岡県	40名(26)	平成19年9月23日～平成20年3月18日
日本介護福祉士会(新潟県支部)	ケア領域	新潟県	40名(40)	平成19年10月21日～12月24日
日本介護福祉士会(愛知県支部)	全ての領域	愛知県	40名(44)	平成19年11月11日～平成20年5月10日
日本介護福祉士会(長野県支部)	全ての領域	長野県	40名(30)	平成19年11月10日～平成20年6月27日
日本介護福祉士会(神奈川県支部)	ケア領域	神奈川	40名(32)	平成20年1月26日～3月22日
日本介護福祉士会(京都府支部)	全ての領域	京都府	30名(29)	平成20年2月9日～8月9日
日本介護福祉士会(近畿ブロック)※申請中	全ての領域	大阪府	40名(41)	平成20年3月15日～9月28日
日本介護福祉士会(福岡県支部)	全ての領域	福岡県	30名(15)	平成20年3月9日～12月14日
鹿児島県社会福祉協議会 老人福祉施設協議会	全ての領域	鹿児島県	40名(36)	平成19年8月22日～12月18日
(有)プログレ総合研究所	全ての領域	埼玉・群馬	20名×8コース(2)	平成19年10月28日～平成20年3月22日
(医)啓信会	全ての領域	京都府	30名	開講中止
(有)QOLサービス	全ての領域	広島県	20名	開講中止
広島YMCA健康福祉専門学校/広島県介護福祉士会	全ての領域	広島県	40名(28)	平成20年3月1日～9月27日
セキスイオアシス(株)オアシスセンター	連携領域	愛知県	10名(12名)	平成20年5月9日～7月4日
(NPO)介護人材キャリア開発機構	ケア領域	新潟県	28名(7)	平成20年2月19日～3月9日
大牟田市介護サービス事業者協議会	ケア領域	新潟県	28名(40)	平成19年12月19日～平成20年5月9日

研修受講の成果（受講生の育ち）①

① 自職場課題、修了レポート等をまとめることによる「自分の考えの言語化」「学習の定着化」

（受講者の声）自分の考えを文章化することを通して自分の思いを再確認した／もしレポートがなかったら研修を修了しても何も残らなかったかもしれない（ほど、レポート作成は大事だと思った）

② 話し合う体験（グループワーク）によるコミュニケーション力の向上、他者の考えを学ぶ力の向上

（受講者の声）グループで話し合うことで、質問のしかた、アイデアを出し合うことを学んだ／他の研修は大人数で聞きっぱなしだったがこの研修では介護福祉士同士の話し合いのなかで介護について共感しながら話し合うことができた／さまざまな種類の事業所で働く参加者の意見、考えなどが参考になった

③ 研修によって与えられた自信や再確認

（受講者の声）講師の話し、他の受講者と話から自分の感じていた疑問はよかったんだと思った／レポートをだしてそれなりの評価をもらうことができた／約半年の研修とそこで与えられた課題をこなした自信

④ 尊厳、倫理、個別ケア、生活支援など「新しい介護」について考えることによる「利用者本位」のサービス提供姿勢の獲得

（受講者の声）表面の言動しかみていなかった／尊厳を損ねていたと思う／これまではみんなが同じように同じサービスをうけることが正しいと思い込んでいた

研修受講の成果（受講生の育ち）②

⑤ 考えて仕事をする介護福祉士になった（これまでの自分のケアへの省察）

（受講者の声）常に振り返りをするようになった／もっとできたことがあるんじゃないかと介護について考えるようになった／研修のなかで個別ケアを学び問題点に気づきチームで改善について話し合った

⑥ 研修受講をとおした「枠組・概念や知識の獲得」「分析手法」の獲得による、自職場でのチーム内のコミュニケーション力の向上、複眼的な視点と方法を用いた実践力の向上

（受講者の声）自分たちは利用者にとって環境なんだというふうに考えるようになった／今までは利用者の視点ではなく職員の視点で見えていた／個人の生活歴からその人を捉えるようになった／考える枠組を学び、実践した／講義中に先生が話した言葉を自分の言葉にして、職場で部下にアドバイスしている／他職種との事例検討で研修で学んだことが活かされている／チームのメンバーとのコミュニケーション・相談の受け方、グループ討議が楽しくなった

⑦ 介護の仕事の深み、面白さ、可能性の再発見が働く意欲の維持につながる

（受講者の声）もっとできることがある／みんなの考えを聞いてみる／さまざまな視点から考え、さまざまな可能性を根拠をもってためすことができる／問題に直面してもあわてないで原因の分析、方策の試行ができる／みんなから元気になったといわれる／離職の防止になると思う

研修受講の成果（受講生の育ち）③

⑧職場（特にチーム）への波及効果

（受講者の声）同じ職場から2人目がうけたことで更に職場内の環境が向上した／こういう研修をすべての職員が受ければ介護が変わると思う

⑨研修を通じた仲間の獲得

（受講者の声）研修を通じて、現場でもつ課題や悩みを共有して励ましあったり、互いに行き来して情報交換しあったりする／一緒に研修を受けた仲間と定期的に情報交換をしている

⑩学習の継続・学習課題への取組み

（受講者の声）介護関係の雑誌を毎月読むようになった／認知症のことをもっと勉強したいと思うようになった／小規模多機能ケアについてことをもっと知りたいと思うようになった／記録の方法をもっと学びたいと思うようになった／セカンドステップ・サードステップが行われるなら受講したい／事故防止、利用者の尊厳などもっと勉強しなければいけないと思った

IV なぜ効果があったのか？

受講者の声をもとに「ファーストステップ研修」
の特徴を明らかにするとともにその効果につ
いて整理しました

ファーストステップ研修の特徴

- ファーストステップ研修は次の2つの特徴がある。
- これが学習効果を高め、成果を上げる要因となっていると考えられる。

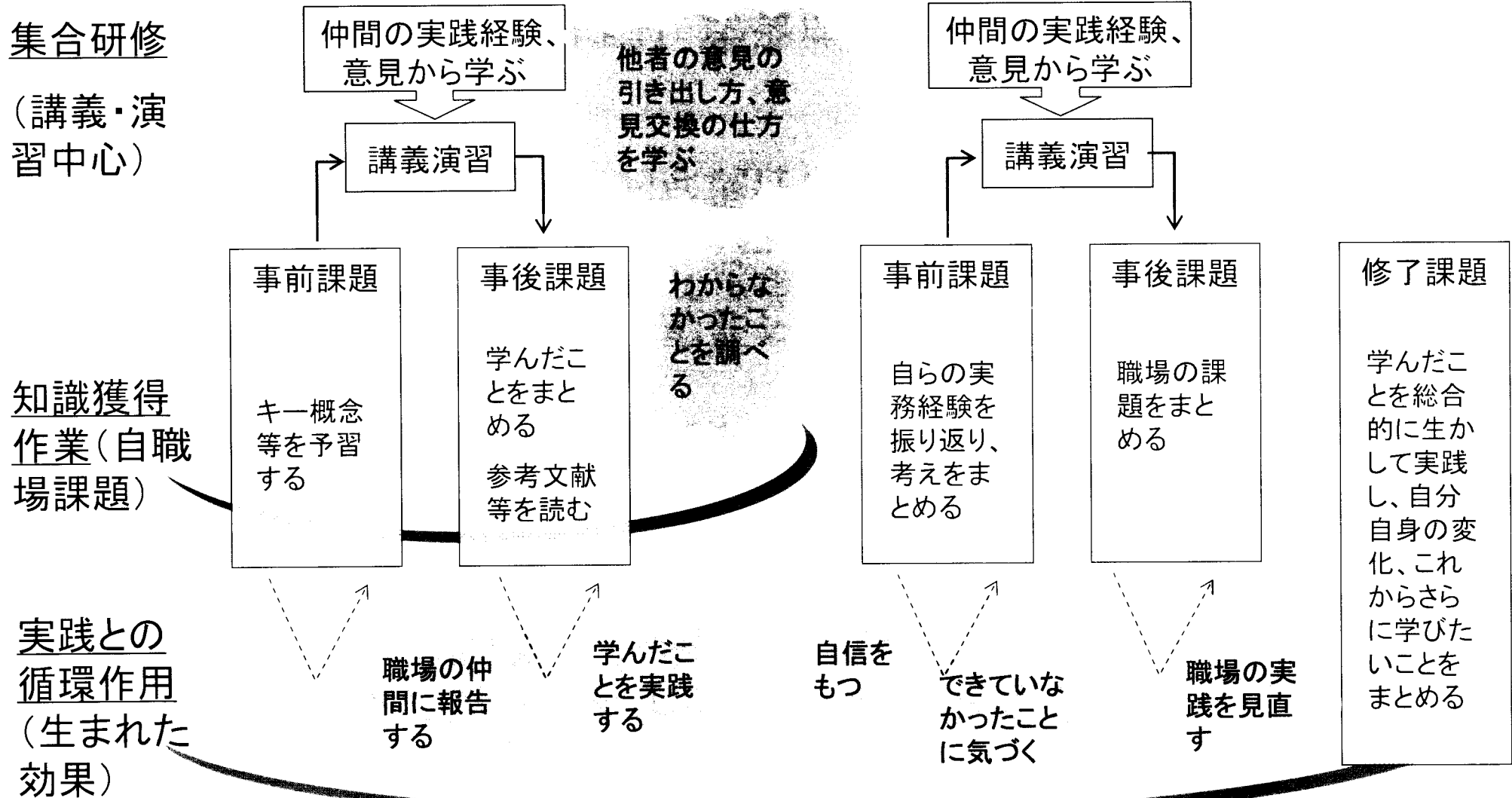
1. 現任者を対象に、学習が促進される仕組みが工夫されている

「長(中)期間の研修」「グループ演習での受講者相互の意見交換」「自職場での事前・事後課題」さらには、チームリーダー候補等の「介護福祉士を中心」など、研修の場と実践の場が連結され、循環されるよう配慮された研修内容、企画であること。

2. 介護実践に必要な「知の統合化」が促される体系的な内容となっている

尊厳、倫理、生活支援の理念など、対人援助職としての理念を核に、「ケア」「連携」「運営管理基礎」という3つの領域を体系的に学ぶ研修となっている。

「研修の場」と「実践の場」とが循環された 学習促進の仕組み



ファーストステップ研修で促進される 介護福祉士としての「知の統合化」

- ファーストステップ研修は、尊厳、倫理、生活支援の理念など、対人援助職としての理念を核に、「ケア」「連携」「運営管理基礎」という領域にわたる専門的知識・技術・方法を学ぶ体系性をもつ。
- 全ての領域を学ぶことで、課題を多角的に分析・把握するための、対人援助の専門職としての「思考枠組み」「ものの見方」が形成される。このような効果は、既に行われている特定のツールや対小職種のための目的限定的な現任研修よりもすぐれている側面がある。
- 自らの実践経験を振り返り、学習成果を実践に活かすことで、実践と学習の有機的な統合が促される。

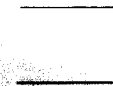
ファーストステップ研修で促進される 介護福祉士としての「知の統合化」

チーム・職場での役割理解
専門的知識・技術の根拠

生活支援の価値・目的

人間観、老い・
障害観、介護観

倫理・行動規範、社会的役割



ファーストステップ研修
の3つの領域の部分



ファーストステップ研修の
領域のうち、とくに「尊厳」
「全人的理解」「倫理」「生
活支援の理念」の部分

介護福祉士としての知の統合化

自らの実践(及び実務経験)

ファーストステップ研修が期待する現任研修の効果

知の統合化

- 対人援助職としての「ものの捉え方」
「思考枠組み」が形成される

キャリア形成・生涯 学習促進の仕組み

- 講義・演習
- 受講者同士の学び
- 実践との循環
- 実践の省察—ふりかえり、自己評価、見直し

エンパワメント

- 実践での躓きへの手当てができる
- 仕事の深みが発見できる
- 意欲・自信が維持、向上する
- 実践・学習課題を明確化できる

実践行動の変容

- 的確に状況を理解し、判断、行動できる
- 他者に説明できる

実践の「基盤となる力」の涵養

- 「観」や「信念」が形成される
- 粘り強く工夫・努力する姿勢を獲得する
- 言語化、記述力、指導力を獲得する
- 学び続ける習慣が身につく

V 政策動向との関係

介護職員のキャリア形成支援(ファーストステップ研修が促進されるため)には、介護保険制度における基準や報酬にも評価される必要があります。地方での動きをご紹介します。

介護職員のキャリア形成支援等に関するこれまでの経緯①

- 改正「福祉人材確保指針」(平成19年8月)では、キャリアアップの仕組みづくりの一環として、「従事者のキャリアパスに対応した研修体系の構築」を行うことが明記された。
- 社会保障審議会福祉部会報告(平成18年12月)等に示された「専門介護福祉士」について検討会が設けられている(平成19年5月、12月の2回実施)。福祉医療機構基金助成により日本介護福祉士養成施設協会、日本介護福祉士会が「認知症専門介護福祉士」の研修等を行った(平成18年度)。

介護職員のキャリア形成支援等に関するこれまでの経緯②

介護給付費分科会が設置した「介護サービス事業の実態把握WT」は、介護労働者の定着を図るうえで必要な措置のための今後の検討課題として、「介護労働者のキャリアアップに資する人員配置基準、キャリアアップにつながる取り組みを行う事業所に対する評価、研修システムの構築、個人に対するインセンティブの構築等の検討」、「サービス提供責任者等の人員配置基準等の在り方、介護報酬上の評価の可否の検討(訪問系)」、「施設入所者の重度化の進展などを踏まえた施設の人員配置基準のあり方、介護福祉士等の専門性の高い職員を多く配置した場合の評価の在り方、任用要件の検討(施設系)」をあげた(平成19年12月)。

「平成21年4月1日までに介護従事者の賃金等の処遇改善施策について検討し必要であれば措置を行うこと」を旨とする与野党提案による「介護従事者処遇改善法案」が衆議院本会議で可決された(平成20年4月25日可決後、参議院に送付)。

介護保険制度に定める実務者向け研修の国庫補助金見直しとの関係

- 老健局の介護サービス従事者研修のうち、「介護支援専門員実務研修」、「認知症実践者研修」、「ユニットケア研修」等への国庫補助が20年度から廃止された。
- 認知症実践者研修については、今回の要綱改正により、ファーストステップ研修、介護職員基礎研修等の既存の研修であっても、都道府県が審査をし、認知症実践者研修としての課程内容を満たしていると認められる場合には、都道府県の判断で既存研修を指定し読み替えることが可能となった（平成20年2月27日 全社協から老健局認知症対策室への照会に対する回答）。

都道府県の最新動向

～動き出した地方の人材確保策

- 【鹿児島県】上記動向も踏まえ、鹿児島県は、鹿児島県社協老人福祉施設協議会が行う「ファーストステップ研修会」修了者について、補講等を要件に、認知症介護実践者研修修了と同等とみなすことを決定（平成20年3月）。鹿児島県社協老人福祉施設協議会は、4月21日「介護福祉士ファーストステップ研修補講」を開催し、63名の参加者に対し修了証書を交付した。鹿児島県社協老人福祉施設協議会では、現在第3期「介護福祉士ファーストステップ研修」を開催中。
- 【神奈川県】神奈川県は、介護人材の確保対策として、20年度に「介護人材認定研修推進事業」を実施。複数の福祉施設が連携して、「介護職員基礎研修」「ファーストステップ研修を実施」（「ファーストステップ研修」の実施主体は神奈川県高齢者福祉施設協議会、研修事務局は南湘南福祉施設連絡会で開催）

VI この取り組みでめざすもの

介護職員のキャリア形成支援の促進には、介護保険制度上の評価とつながること重要です。それが「介護サービスの質の向上」「介護職員の労働環境の向上」をもたらします。

介護職員の研修体系等（現状を整理したもの）

介護福祉士のキャリア開発支援システム

認知症・ユニット等制度上の研修

介護部門の統括
責任者

介護統括責任者

専門介護福祉士（仮称）

セカンドステップ研修

主任・管理者

熟練者
（熟練志向）

スーパーバイザー
（教育志向）

サービス管理者
（組織志向）

認定介護
福祉士5d

実習指導
者研修

指導者研修
40h+25d

管理者
9h

計画作成
担当者9h

小チームリーダー

ファーストステップ研修
200h

実践リーダ-
57h+3d・4w

ユニットリー
ダ-17h+5d

介護福祉士

介護福祉士 1680h ※21年度より1800h

介護職員基礎研修
500h

認知症実
践者研修
20h(+16h)

無資格者・
開設者

訪問介護
員研修

開設者
6h

介護職員等のキャリアアップ研修体系の将来像(提案)

介護福祉士のキャリア開発支援システム

認知症・ユニット等制度上の研修

介護部門の統括
責任者

介護統括責任者研修

主任・管理者

専門介護福祉士(仮称)

セカンドステップ研修

指導者研修
40h+25d

熟練者
(熟練志向)

スーパーバイザー
(教育志向)

サービス管理者
(組織志向)

認定介護
福祉士5d

実習指導
者研修

管理者
9h

小チームリーダー

ファーストステップ研修
200h

実践リーダー
57h+3d+4w

計画作成
担当者9h

ユニットリーダー
17h+5d

介護福祉士

介護福祉士 1680h ※21年度より1800h

無資格者・
開設者

介護職員基礎研修500h

認知症実践
者研修
20h(+16h)

訪問介護員研修

開設者
6h

介護保険制度とリンクしたキャリア支援

介護保険制度上の評価・位置づけの明確化によるキャリア形成のバックアップ(提案)

- 「個室・ユニットケア」を行う介護保険施設や「地域密着型サービス(認知症対応型生活介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護等)」の小チーム・ユニットごとに1名以上のファーストステップ研修修了者を常勤配置化に。
- ケアの個別化、小規模化を進め、質の向上を図る一環として、従来型の介護保険施設、通所系サービス、特定施設入所者生活介護などでも、ファーストステップ研修修了者をチームリーダーとして任用、常勤配置し、報酬上評価へ。
- 訪問介護事業のサービス提供責任者に、ファーストステップ研修修了者を常勤で配置し、報酬上評価へ。

2008（平成 20）年 9 月 発行

平成 20 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
高年福祉部／中央福祉人材センター

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
Tel.03-3581-7801（中央福祉人材センター） Tel.03-3581-6501（高年福祉部）
<http://www.shakyo.or.jp/>